

# 12 月定例記者会見 会見録

令和元年(2019 年)12 月 17 日 (火) 10:00～11:00 庁議室

## 質疑応答

### ■「第 5 次つくば市きれいなまちづくり行動計画 (案)」について

#### 記者 A

第 4 次から変更になったポイントを伺います。

#### 環境保全課 係長

第 5 次計画では、主に、計画の期間と事業の目標を変更し、事業内容を見直しました。

計画の期間は、これまで 3 年間でしたが、第 5 次計画では期間を 5 年間に変更します。第 5 次計画では 3 年目に中間評価を行い、必要に応じて事業の見直しを行います。

また、事業の目標では、これまで成果の把握が困難な目標を設定しているものもありましたが、第 5 次計画では計測可能な指標を設定することで、事業の進行度の成果等を検証できるようにします。

事業内容の見直しについては、既存の 3 事業を統合し、「印刷物散乱防止事業」としました。既存の事業とは、第 4 次計画の「印刷物放置対策事業」「自動販売機の適正管理指導」「飲食とたばこ」のことで、防犯美化サポーターの巡回を主とする事業でしたが、印刷物放置件数などが減少していることから統合しました。

さらに、既存事業の「花と緑の美化活動」について、現在の事業は事業所や団体が対象となっている市民へと活動を広げるために、「花と緑の啓発事業」として新規事業に組み込みました。

### ■令和元年度市民アンケート窓口調査の結果について

#### 記者 B

職員の接遇等については「ほぼ満足」という回答がおおむね8割を超えていますが、今回の調査方法と今後の検討、対応方策などがあれば伺います。

### **政策イノベーション部長**

アンケート自体は政策イノベーション部で作成しました。市民部などにも結果を共有しています。また、自由記述での回答もいただいていますので、これらの意見については、窓口の業務改善に活用していきたいと考えています。

### **記者 B**

「電子化による窓口手続の簡略化」について進めてほしいという声が44.7%と、かなりありましたが、今後窓口の電子化について検討する予定はありますか。

### **政策イノベーション部長**

政策イノベーション部としては行政のデジタル化を進めています。既に、遠隔で行える手続があったり、住民票や印鑑証明などを、マイナンバーカードを用いてコンビニで取得できたりしますが、これらの手続を知らない方もいるので、必ずしも来庁しなくても様々な手続ができることこの周知に努め、現在できないことはできるように順次取組を進めていきたいと考えています。

### **■令和2年つくば市成人の集いの開催について**

#### **記者 B**

平成29年1月にトラブルがありましたが、それを受けて、令和2年のつくば市成人の集いで何か工夫することや準備体制などを教えてください。

#### **生涯学習推進課長**

前回（平成31年1月）、会場周辺の道路を通行止めしましたが、次回も引き続き実施するので、

変更点は特にありません。警察、警備員、市職員を配置し、安全に開催できるように対応していきたいと考えています。

## ■「第2次つくば市鳥獣被害防止計画（案）」について

### 記者 C

1点目は鳥獣被害の傾向について、最近は房総半島でキョンが増えているなど被害をもたらす獣の種類が変わってきているという話を聞きますが、つくば市内でも同様の傾向はありますか。

もう1点は全国的にも指摘されている免許保持者を増やすための具体的な対策等が盛り込まれているのか。その他、第2次計画のポイントや1次との変更点について伺います。

### 農業政策課 課長補佐

今回の第2次計画は、農業従事者にアンケート調査を実施し、カラスによる被害が多く見受けられたため、カラスを捕獲の対象としました。また、狩猟の免許保持者の追試については、狩猟免許取得にあたり、環境保全課で補助事業を行っています。

### 記者 C

第2次計画でカラスが対象に初めて加わったということですか。

### 農業政策課 課長補佐

そうです。

### 記者 A

過去の捕獲頭数の実績で、3年間でイノシシの頭数が3倍以上増えていますが、実際に出没件数の現況を反映したものなのか、捕獲の許可をしたからなのか、要因を教えてください。

### 農業政策課 課長補佐

捕獲頭数が増えた要因には、猟友会による捕獲頭数が増えたことによるものです。

### **毛塚副市長**

補足します。本来、各自治体で鳥獣被害対策の会議を猟友会と地元の区会などで組織していますが、つくば市ではこれまでありませんでした。

そこで、平成 29 年度に新たに鳥獣被害対策会議を設立し、その結果として猟友会に被害の状況をしっかり伝えることができるようになりました。

さらに、あわせて鳥獣被害防止対策計画の第 1 次計画を策定し、1 頭あたり 1 万円の捕獲報奨金を設けたり、電気柵の整備に補助金を設けたりするなどの対策を講じました。そのような本格的な取組が開始されたため、捕獲頭数が急激に増加しています。

### **記者 A**

捕獲の奨励を反映した数字であって、被害の拡大を反映した数字ではないということでしょうか伺います。

### **毛塚副市長**

この数自体は捕獲頭数の反映です。

### **農業政策課 課長補佐**

参考までに、被害額は一定の水準で推移しています。

## **■筑波大学陸上競技部の箱根駅伝出場について**

### **記者 D**

いよいよ来年 1 月の 2 日と 3 日に筑波大学が 26 年ぶりに箱根駅伝の本選に出場します。残り数週間ですが、どのような走り、あるいはどのような結果を期待しますか。

## 市長

先日（12月13日）陸上競技部の弘山監督と選手の皆さんが来庁し、「シード権を目指す」と明確におっしゃっていましたので、ぜひシード権を取っていただきたいと思っておりますが、一番は選手の皆さんが持っている最大のパフォーマンスが発揮されることを期待しています。一生懸命、選手の皆さんが力を出し切り、良い走りをしてくれれば結果は出てくるだろうと思っております。

## 記者 D

イベント等に駅伝チームの方々を呼ぶなど、地域を盛り上げるイベントなど今後計画している、あるいは、進行中のイベントがあれば伺います。

## 市長

現在、市をあげて応援をしているところです。例えばつくばマラソンでは、筑波大学箱根駅伝応援のブースを大学側と協力して設置しました。また市民が応援メッセージをたすきに書き込む企画を行ったり、応援の横断幕を製作し、市内の陸橋や庁舎に掲げたりしています。

一方で、選手の皆さんに市の応援イベント等に参加していただくことについてですが、選手にとって一番重要なことは体調管理や集中できるトレーニング環境だと思いますので、もし市の応援イベントが原因で選手自身のパフォーマンスを下げってしまうことがあっては本末転倒であると考えています。今後、引き続き筑波大学と密に相談をしながら、選手の希望に沿う形で応援していきたいと思っております。

## 以上

記者 A 毎日新聞

記者 B 読売新聞

記者 C 朝日新聞

記者 D 茨城放送